

国語に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

- ◇「読むこと」に係る出題において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることについて、よくできている。
- ◇「話すこと・聞くこと」に係る出題において、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについて、よくできている。
- ◆「書くこと」に係る出題において、漢字を文の中で正しく使うことができるかについて課題がある。

指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

○文章中の言葉を正しい漢字に書き換える問題で、(四) ア 相手のこのみ→相手の好み イ あつい日→暑い日 の書き直しが全国平均と比較してどちらもマイナスとなり、イの問題では－8.8点であった。漢字の書き取りに関して、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられる。文や文章の中で使おうとする習慣を身につけるようにすることが重要である。

情報の扱いに関する事項

○情報と情報をの関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題で、話し合いの記録の図からその図が表している内容を正しく文章にしたものを選択する問題だった(全国平均より＋3.8点)。図と語句とのつながりを正しく理解する力は、実際に自分でもマッピングを使って思考する経験が大切であり、そのような授業が多くの学校で実施されていることの表れだと考える。今後も、年間を通じて複数回、様々な思考ツールを使って情報の整理をすることについて意図的に指導することが大切である。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○インタビューの様子を読み取り、発言の目的と理由を問う問題で、どちらも全国平均を上回った。特に、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力が求められる問題では、＋4.9点となり、日頃の協働的な学びの取り組みがこの結果に結びついているのではないかと推測する。今後も、意見の比較をしながら自分の意見をまとめ上げる機会を多く設定し、力を伸ばしたい。グループでインタビューをする活動においては、一人ずつ順番に聞きたいことを聞くのではなく、自分たちが聞きたい情報や聞いた内容の生かし方をグループで共有するなどして、意図的に質問を重ねたり、聞いた情報をつなげたりできるように指導することが大切である。

書くこと

○文章を構成したり、図や表を用いて自分の意見が伝わりやすくなるように工夫することができるかを問う問題では、全国平均を上回る一方で、実際に自分の意見を資料をもとに書く問題では、全国平均を下回った。自分の考えを簡単にまとめたり、書き表し方を工夫する経験を学年の発達段階に応じて授業の中で取り入れて、他者の文章を読み比較する機会を設けることも必要である。

読むこと

○資料から読み取った内容を伝え合う場面では、ICT端末の活用が効果的である。それぞれがまとめたメモを一つの画面で共有することで、協働的に必要な情報かどうかを確かめたり、それぞれのメモを結び付けたりしやすくなる。また、メモの比較を通して、共通することや異なることなど、新たな気づきが生まれやすくなる。

